

## 「第25回日本水大賞 2023日本ストックホルム青少年水大賞」表彰式

### 名誉総裁お言葉

2023年(令和5年)6月13日(火)

本日、「第25回日本水大賞 2023日本ストックホルム青少年水大賞」の表彰式が開催され、皆様にお会いできたことを大変嬉しく思います。そして、このたび各賞を受賞される皆様に心よりお祝いを申し上げます。

2020年からの3年間、COVID-19の影響により、表彰式は中止もしくは出席者を限った開催となっておりました。しかし今回は、多くの皆様とともに表彰式を行うことができ、まことに喜ばしく思っております。

さて、「水」は、私たちの暮らしを取り巻く自然の中でも最も身近な存在の一つです。そして、人類のみならず地球上の生命にとって必要不可欠であるとともに、かけがえのない恵みを与えてくれるものでもあります。

そのいっぽうで、水害が毎年のように起こり、今月はじめにも西日本から東海地方にかけて線状降水帯が発生し、各地が豪雨に見舞われるなど、水は自然災害をもたらすものであることも忘れてはなりません。

日本水大賞は、本年で四半世紀を迎えます。この間、国連では、「すべての人々の水と衛生の利用可能性と持続可能な管理を確保する」との目標が掲げられ、水に関する事柄が地球規模の課題となりました。また、先の線状降水帯による局地的な大雨をはじめ、気候変動に伴う自然災害など様々な問題が発生しております。そして、そのことを反映するかのよう、水大賞への応募の割合は、水環境や水資源に加え、水防災に関わるものが増えてきております。

今回の第25回日本水大賞には「北九州市上下水道局」の活動が選ばれました。3年連続で国際分野の活動が受賞したことになります。北九州市は、公害や濁水、浸水などの問題を乗り越えてきた経験をもとに、上下水道の分野で国際技術協力を進め、カンボジアの水道普及や、ベトナムの浄水場へ北九州市独自のろ過技術を導入するなど、世界各国と幅広い交流を続けてきています。

また、2023日本ストックホルム青少年水大賞には「沖縄尚学高等学校 BiO<sub>2</sub>(バイオツー)」の活動が選ばれました。世界で工場排水などによる環境汚染が問題となる中、廃水処理率の低い地域にマングローブが多く分布することに着目し、その一種であるメヒルギを用いたバイオレメディエーションに取り組みました。そして、メヒルギの葉に重金属が濃縮していることを確認し、水質を浄化できる可能性を示しました。

私たちは、水から受ける恩恵に感謝し、安全で安心することができ、かつ健全な水循環系を礎とした国土と自然を、後世に引き継いでいかなければなりません。本賞が、そのひとつの契機となり、多くの人々がそれぞれの地域で水を守り、水について考える活動を実践していかれることを願っております。

おわりに、水に関わる皆様の活動が、日本はもとより世界へと発展していくことを祈念し、私の挨拶といたします。